

秋の山

新野祐子

月山の白と懸巢かけすの白映えて

秋の日の生んだ彩雲より羽音

清太岩山せいたいわは天狗の名だろう天高し

遭難の碑あり十月のここえとぞ

険谷けんこく登る人の幻秋気満つ

「また来るよ」こだまは佐渡へ鯖雲へ

身しに入むや竜門小屋の水場閉ず

熊糞山ゆうふんを熊鷹の舞う冬隣

モスクワ遠し峰に色づくななかまど

釣瓶落しまた思い馳す戦場よ